

〈聴覚障害の検診〉

1. 東京都の三歳児健康診査における聴覚検査成績

(平成4年1～9月)

田中 美郷*

東京都では三歳児健康診査における聴覚検査法として、アンケートと、ささやき声による聞こえの検査および指こすり音による聞こえの検査の3種を家庭で行ってもらう方式で、平成2年と3年の2回に亘りパイロットスタディを行い、平成4年1月より市町村部を皮切りに、本格的実施に入った。今回は平成4年1月から9月までの成績について報告する。

調査場所

東京都市町村部保健所

調査期間

平成4年1月から9月までの9カ月間

調査方法

保健所から提出された母子衛生事業報告に基づく

調査成績

1) 初回聴覚検査成績

対象は25,895名で、このうち受診したもの22,779 (88.0%)、後者(受診者)で聴覚検査を受けたものは22,354 (98.1%)、未実施者は425 (1.9%)であった。

検査を受けた22,345名中21,187名(94.8%)は異常なしと判定され、235 (1.1%)は要精密検査、798 (3.5%)は要経過観察とされた。残り116名(0.5%)は医療機関で治療を受けていた。平成3年の二次パイロットスタディでは、要精密検査は3.3%、要経過観察は2.3%であったが、この成績と今回のそれとを比較すると、今回は要精密検査の比率が低くて要経過観察のそれが高かった。この両者の違いは、主として判定者の判断の違いの反映と思われる。

2) 要経過観察例

要経過観察798名中128名(0.6%)は言葉の遅れ、574名(2.6%)は要聴覚検査であった。後者即ち574名中再検査を受けたものは371 (64.6%)であり、このうち聴覚検査を受けたものは256 (69.0%)であった。

検査結果は、236 (92.2%)が異常なし、10 (3.9%)はさらに要経過観察、要聴覚精密検査は7 (2.7%)。その他3 (1.2%)であった。

3) 精密検査成績

平成4年11月までに契約医療機関から母子保健課に費用請求があった163件について分析した。結果は表の如くである。診断名は精密健診票に記載されたものに従った。

*帝京大学医学部耳鼻咽喉科

診断結果	実数(%)
感音難聴	4
感音難聴の疑い	10
混合性難聴	2
急性中耳炎	4
滲出性中耳炎	52
耳管狭窄症	11
耳垢栓塞	25
言語発達遅滞	6
その他	5
異常なし	44(27.0%)
合計	163

4) 感音難聴 4 例について

4 例中 2 例は著者の外来を訪れた。第一例は両側100dBで、右耳に滲出性中耳炎があり、言語発達は著しく遅れていた。診断後はろう学校へ紹介。第二例は両側に80dBの難聴あり、言語発達も遅れていた。両例とも母親は、ささやき声による聞こえの検査が全くできなかったので難聴が心配になったという。特に第二例は三歳児健診では要経過観察とされたが、ささやき声に全く反応しなかったのが気になり、母親が自ら子どもを連れて著者の外来を訪れた。

考 察

三歳児健康診査に聴覚検査を導入するに当たっては、滲出性中耳炎の取扱いを巡って大きな混乱が生じ、この混乱は未だに解決されていない。東京都は聴覚検査の目的を最初から「聴覚障害」の検出に置き、滲出性中耳炎はそれが両側性的の場合には「聴覚障害」の枠内で検出されるであろうという前提のもとに、検査法を検討し、2 回に及ぶパイロットスタディを経てほぼ満足できる検査法を確立した。実施成績を言語発達を

阻害するほどの感音難聴についてみると、第一次パイロットスタディでは受診者618名の中から1名検出された。その後1年してもう1名いたことが判明したが、この例は聴覚検査では明らかに難聴を示唆していたにもかかわらず、健診に当たった耳鼻科医が見過ごしてしまった。第二次パイロットスタディでは、受診者785名中に両側感音難聴児は検出されなかった。今回の調査では受診者22,779名中感音難聴が4名検出されており、聴覚健診は見るべき成果をあげているとみたい。ただし今回も4名中1名は親が難聴を疑ったにもかかわらず、判定の段階で要経過観察とされていた。このようなミスは検査法に由来するものではなく、全く人為的なもので、選別基準を厳格に守っておれば避けられたものである。しかし人間の作業はとかく判断が加わるだけに多分に起こり得るミスであり、それだけに、関係職員に対する徹底した教育が望まれる。

検査法に関しては、アンケートおよびささやき声による聞こえの検査は親の難聴に対する意識を喚起する意味でも有効であることが判明した。

文 献

- 1) 田中美郷ほか：東京都における三歳児聴覚検診パイロットスタディ. *Audiology Japan*, 35: 112-119, 1992.
- 2) 田中美郷：三歳児聴覚検診—東京都における経緯と現状. *都耳鼻会報*, No. 80: 42-52, 1992.

三歳児聴覚検診アンケート

幼児氏名 _____ 性別 _____ 男・女 _____ 生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____
 検診日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____

次の項目のうち、あごはまる項目を○で囲んでください。

1. 今までの病氣や耳の聞こえ・ことばなどについて
 1 家族の方に耳の聞こえが悪い人がいますか。
 (お子さんの父母・兄弟姉妹について)
 はい いいえ
- 2 今までに中耳炎で耳鼻科にかかったことがありますか。
 はい いいえ
 回 _____ 年 _____ 月 _____ 頃 _____
- 3 呼んでも返事をしないことがありますか。
 はい いいえ
- 4 言葉がおくれていると思いますか。
 はい いいえ
- 5 話しことばがおかしいと思いますか。
 はい いいえ

2. お子さんの耳の聞こえの検査の結果について
 下記の□の中に、聞こえていければ○、聞こえていないようなら×、わからない場合は△をつけてください。

(1) さきやき声の検査

いぬ	うし	かさ	ぞう	ねこ	いす

(2) 指さすりの検査

右耳	左耳

御協力ありがとうございました。

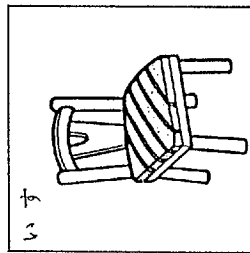
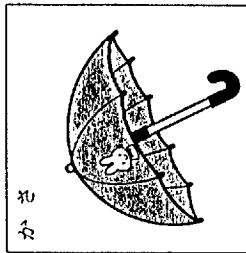
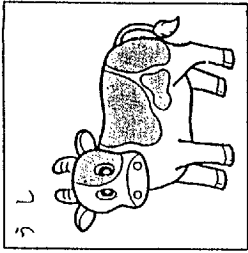
指示 1 特になし

2 経過観察

3 要精密(紹介先 _____)

4 その他

絵シート





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



東京都では三歳児健康診査における聴覚検査法として、アンケートと、ささやき声による聞こえの検査および指こすり音による聞こえの検査の 3 種を家庭で行ってもらう方式で、平成 2 年と 3 年の 2 回に亘りパイロットスタディを行い、平成 4 年 1 月より市町村部を皮切りに、本格的実施に入った。今回は平成 4 年 1 月から 9 月までの成績について報告する。